

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1273500296		
法人名	株式会社白松		
事業所名	グループホーム白松		
所在地	千葉県八街市富山1345-16		
自己評価作成日	平成25年2月5日	評価結果市町村受理日	平成25年4月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	日本化成販売株式会社		
所在地	東京都千代田区五番町2-14		
訪問調査日	平成25年2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同企業グループ有料老人ホーム白松の郷に隣接して、広い庭が自慢です。桜並木の遊歩道の途中には、小さな神社もあります。医療面では白松の郷の看護師によるバッグアップもあり、安心して過ごしていただけたと思います。野菜中心の食事の中には、自分たちの畑で採れた野菜も入っています。地域との行事にも参加する機会が増えてきています。ご家族様には月一回、写真入りの新聞と手紙にて受診結果等報告しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム「白松」に隣接して、同一法人が運営する有料老人ホーム「白松の郷」があり、健康管理や医療面、各種行事面で連携が図られ、利用者は健康で安心した、楽しい生活をおくることが出来ます。ホームはアットホームな雰囲気です。利用者全員が朝からリビングにつどい、職員と共に思い思いに過ごしています。職員の勤続年数も長く、利用者との馴染みの関係が築かれ、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかみ、その時々に応じた支援を行うことが出来ます。職員間のコミュニケーションも良く取れており、意見や提案も自由に出来、職員にとっても明るく働きやすいホームとなっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホーム内に掲示、理解の上、自立支援、尊厳のある生活への実践に向けて努力している。	職員と作り上げた事業所独自の理念とともに、「白松のサービス三原則」、「白松の合言葉」を掲げ、朝・夕の申し送り時に確認し、日々の支援に取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、回覧による地域の情報を得たり、行事に参加、2ヵ月毎に近所的美容院がカットに来てくれたり、米を地域の米屋で購入する等、交流を持つようにしている。また、文化展にみんなで作った作品を出品している。	地域の福祉祭りやコミュニティー祭りに参加し、利用者が作った作品を出展するなどして、地域交流を図っています。現在、町内の廃品回収に協力したり、美化運動に参加することを検討しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特に行ってはいないが、検討中。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地区の代表の方、近所の方、地域包括支援センターの職員、隣接するグループホームの管理者、家族や居住者が集まり、意見や感想を話し合ったことを業務に活かす努力をしている。開催の回数が減ってしまっている。	今年度の運営推進会議の開催は、1回に終わりました。会議ではホームの運営状況報告や、食事・日常生活の様子をスライドで見て話し合う等、活発な意見交換が行われています。	運営推進会議は、地域の理解と支援を得るための良い機会です。地域に根ざしたホームとして、更なる理解と支援を得るためにも、年6回の開催に向けて努力されることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	家族、居住者の方がより良く生活できるよう、必要に応じ相談している。また、家族に高齢者福祉課に勤務されている方がいて、情報提供してくれている。	認定更新の機会等を利用したり、必要に応じて相談できる関係が築かれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	生活の場が2階であるため、安全面を考え、出入り口に施錠している。個人についても、やむをえず拘束しなければならない方については、家族に説明し、同意書をいただいている。また、早く拘束を外せるよう、毎月モニタリングと検討を行っている。	高齢者の権利擁護や身体拘束に関する内外の研修に参加し、職員の共通認識を図っています。管理者や職員は、身体拘束の内容とその弊害を認識しています。拘束に当たるような言葉遣い、行動があった場合は、職員間で注意を合っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修、社外研修に参加し、理解を深め考える機会を持ってもらっている。日常の業務の中で声を掛け合っている。		

【グループホーム白松】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修、社外研修に参加し、知識を深めている。 併設の有料老人ホームに利用されている方がいるので、相談することができる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書で十分な説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に話を聞いたり、エレベーター前に意見箱を設置している。また、懇親会で家族と話し合う機会を設けた。	家族の訪問時や家族会を利用し、意見や要望を聴いています。また、ケアプランの更新時にも家族と話し合う機会を設けています。意見や要望に対しては、素早い対応を心掛けています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、スタッフ会議を開催。毎朝、ミーティングで話し合う機会を設けている。職員の声を業務改善委員会にあげている。	管理者は普段から職員の声に耳を傾け、話しやすい環境作りをしています。ミーティングや昼食後の時間を利用するなどして、話し合う機会を設けています。必要な改善事項は、毎月開催の業務改善委員会で検討しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	永年勤続表彰制度や資格手当あり。 交代で社外研修に参加し、スキルアップの場を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県社会福祉研修センターからの研修には、交代で受講。 有料老人ホームとの合同研修には、交代で全員が参加。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣接するグループホームへ見学させていただいたり、納涼祭への案内を送った。 運営推進会議に参加していただいた。		

【グループホーム白松】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時に家族から話を聞き、日常生活の中で本人から不安や要望等に耳を傾けている。気にかかることがあれば、その都度家族から話を聞き、本人によりそえるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の生活の様子を手紙や電話で、また、面会時に報告しその都度要望や意向を聞くようにしている。 毎月、日常生活や受診の報告を手紙にて行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	良く話を聞くとともに、日常生活の中で観察してきたことを職員間で話し合い、何を必要としているのか検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できるだけ家庭の中で生活しているように、職員と共に家事をしたり、雑談をしたり、テレビを見たり、一緒に同じ物を食べて生活している。楽しい事、不安な事も共感できるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	できるかぎり、家族との一緒に時間を過ごしていただけるように声掛けをしている。 外出、外泊のお願いをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙の代筆や、電話で話してもらう。 職員同行での自宅への外出も検討している。	お墓参りに行きたい、家に帰りたいという利用者の希望を家族に伝え、実現を図っています。また、馴染みのスーパーへの買い物にも、同行支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居住者同士の関わりを大切にしながら、良好な関係を保てるよう見守り、必要時には声掛け、関われるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後も、グループホームの新聞を送っている。		

【グループホーム白松】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人とゆっくりと話をする機会を持ち、本人が何を望み、どうありたいのか把握できるよう努めている。また、生活している中での1つ1つの言動から、本人がどのように生活をしたいのか汲み取るよう努めている。ときには、家族から話を聞くようにしている。	「話があるから」と居室に呼ばれて直接聴いたり、本人のちょっとした仕草や表情から察して、こちらからゆっくり話をする等して、思いや意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や居宅ケアマネージャーから情報の提供を受けたり、本人の話の中から聞きとるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の生活の観察や感じとったことを生活記録、受診記録、申し送りノートに記入、会議や話し合いで情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成やモニタリングにおいて職員に意見を求め、参考にしている。また、半年に一回、報告や意見・要望を聞き、取り入れている。	介護計画の作成に当たってはモニタリング、アセスメントを行い、職員の意見も参考にし、作成しています。また、家族と話し合って要望を聴き、必要な場合は看護師の意見も取り入れています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルの生活記録や申し送りノートへ必要なことを記入し、職員で確認し情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人にとって今何が必要なのか、何がいちばん大切なのかを常に考え、検討するように努めている。		

【グループホーム白松】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	併設の有料老人ホームの力に助けられている。その他に地区の行事に参加し、市の文化展に作品を出展している。ボランティア、ヘルパー実習の受入れ、小学生との交流社会を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際、協力医療機関に変更される居住者が多く、有料老人ホームで毎週水曜日に診療を受けられる。(八街総合病院・内科) 毎週金曜日には訪問歯科、月・水・金はマッサージをしてもらっている。他の科については、八街総合病院へ有料老人ホームの車で送迎してもらえる。	家族了解のもと、全員がホームの協力医をかかりつけ医としています。協力医の往診が毎週ある他、併設の「有料老人ホーム」の看護師の訪問が毎日あり、安心した生活が送れます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康状態に変化があった場合、有料老人ホームのナースに連絡し、相談対応してもらっている。日に一度、居住者の様子を見に来てくれ、状態に変化があれば随時来てくれる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員が時間のあるときは、交代で見舞いに行き、様子を見てくる。 有料老人ホームの医務室ヘルパーが、毎日様子を見に行き、病院のナースの話を伝えてもらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設の作りが、健常な方向けにできていて難しい。風呂は、有料老人ホームの機械浴を利用させてもらっている。提携している特養もあるが、どうしたら良いのか家族と話し合い、有料老人ホームで見てもらいながら対応している居住者もいる。	看取りは行っていませんが、入居時に重度化や終末期の対応について説明し、了解を得ています。重度化を迎えた場合は本人・家族の意向を確認し、併設する「有料老人ホーム」の協力を得ながら、利用者・家族が安心して過ごせる支援をしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修でAEDの操作方法、救急時の心肺蘇生の訓練を行い、マニュアルを作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月19日を防災の日と定め、災害時の訓練を行っている。 年2回、居住者・職員共に、避難訓練を行っている。 社内研修で勉強。 運営推進会議で、地区の方と災害時について話し合いを持った。	ホームで毎月19日と定めた「防災の日」の災害時訓練や水・乾パンなどの備蓄は、併設の「有料老人ホーム」ともに行っています。また年2回、利用者と職員と一緒に避難訓練を実施しています。消防署による消火器使用訓練なども受けています。	

【グループホーム白松】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者であることを頭に入れ、声掛けをしている。入室の際は、声掛けをして了解を得る。汚物を隠す方に対しては、時々居室に入らせていただくときがある。 個人情報機は引出しにて保管、重要書類は有料老人ホームで保管している。	利用者の人格尊重とプライバシー確保については、細心の注意を払っています。入浴時の下着や居室での匂いで失禁などを確認した場合は、さりげなく処理するよう配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こちらからの働きかけがないと、何をしても良いのかわからない方が多く、声掛けによりやる気を引き出すように努めている。強制することなく問いかけるようにし、また本人が意志決定しやすいよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の体調に合わせて、その日の気分を大切に、希望、要望に沿うよう支援している。寝たきりにならないように自立支援をふまえて、声掛けに工夫するよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の衣類の準備を職員と一緒にしながら、本人の好みの服を選んでいただいている。行事参加するときなどは、薄化粧や服装に気を配るよう支援している。2か月に1回カットしてもらっている。毎日化粧をしている方もいて、きれいになりたいという気持ちを大切にしよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや、食器の片付け、テーブル拭きをみんなでやり、コロッケ、餃子、いなり寿司等は調理にも参加している。片付けのできない方の食器も協力して片付けてくれたり、助け合いの気持ちも見られている。職員と居住者が、一緒に食事をしている。	食堂兼居間の一部が調理場になっており、料理の匂い、音などが五感を刺激しています。利用者は準備から後片付け、献立によっては調理にも参加しています。旬の野菜・くだもの・鶏肉などのおかずも豊富で、暖かい食事と相まったアットホームな雰囲気は、何よりのご馳走となっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に水分、食事摂取量を記録している。個々の状態に合った食事の形態、固さを工夫している。 本人の好みに合わせて、メニューを一部変える工夫などの支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアに、一部介助や声掛け、見守りと職員が関わって本人の力に応じた支援をしている。 定期的、また異常時に訪問歯科で診てもらっている。		

【グループホーム白松】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を参考に声掛けやトイレ誘導を行っている。失敗した場合の原因について検討し、次はどのようにしたら良いのかを職員で支援している。	排泄に失敗する原因に、間に合わない・排泄しきれしていないなどがあるので、排泄チェック表で確認し、次に備えています。現在はリハビリパンツ・下着パッドの着用者はいるものの、おむつ使用者は一人もいません。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜中心の食事や適度な水分摂取、散歩や運動を日常生活の中で取り入れるよう努めている。数日、排泄の確認ができないときは、有料老人ホームのナースに相談し対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に隔日が入浴している。(変更もあり)体調や本人の希望により中止することもある。介助の必要な方には手伝いを、そうでない方には見守りをし、好みの湯温で会話を楽しんだり歌ったりしている。	入浴は隔日入浴を基本としていますが、本人の希望や体調に応じて柔軟に対応しています。一人ひとりの好みの温度やペースに合わせ、楽しく入浴ができるよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活のリズムで休息したり、入眠している。部屋の照明や温度等、本人が安眠できるよう支援している。 週1回シーツ交換をし、気持ち良く横になっていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時の経過記録と処方箋を確認し、服薬は職員が管理している。服薬が変わったときは、申し送りノートにて周知し、様子観察を行う。薬の説明書は保管し、薬事典はいつでも見られるように置いてある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意なことを支援している。家事の好きな方は手伝いを、歌の好きな方は歌を、何かを作るのが好きな方は手工芸を、体を動かすのが好きな方は運動をしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩や有料老人ホームの行事への参加、月1回のドライブ、地区の行事の参加。 外出、外泊等は家族の協力がある。	併設する「有料老人ホーム」の行事への参加や、敷地内の遊歩道を使った散歩、神社へのお参り、庭での外気浴等を行っています。また、季節ごとにお花見、ドライブ、外食に出掛けるなど、外出の機会は多くなっています。	



【グループホーム白松】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名、自分でお金を持っている。日常の金銭管理は有料老人ホームの事務所でやっている。有料老人ホーム売店へ日用品を買いに行くこともある。ドライブのときに、買物を楽しむ方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人へ電話がかかってきたときは、話をしている。 手紙のやりとりをしたり、書けない方には代筆をしている。 年賀状を出した方がいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花や温度に配慮し、居室前の飾りや廊下の飾りは、季節感のある物を手作りしていただき飾っている。 調理の音やにおいがあり、生活感を常に感じられる。	ソファが置かれている廊下は、花や写真の他、利用者による手作りの飾りつけで季節感に溢れ、思い思い楽しく過ごせる空間となっています。また、食事を作る音やにおいが、居間・廊下・居室へと漂い、家庭の生活感を醸し出しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間と廊下にソファを置き、自由に座っていただいている。ソファの前の壁には、日常生活の写真が飾っており、会話が弾んでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を居室に置いている。壁には家族の写真、手作りのカレンダーを飾ったりと個人の居室としての雰囲気を出している。 各居室前にのれんがかかっていて、プライベートとしての空間を作っている。	各居室には、使い慣れたタンス等愛用品が持ち込まれ、家族の写真・手作りカレンダーなどが飾られています。好きな物に囲まれて、それぞれが居心地のよい部屋となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを設置し、便座は高さの違うものを設置。 館内はバリアフリーでじゅうたん張り。各居室入口に個々違うのれんをかけ、自分の居室をわかりやすくしている。居室がわからなくなってしまう方のために、目印をつけたりする。		